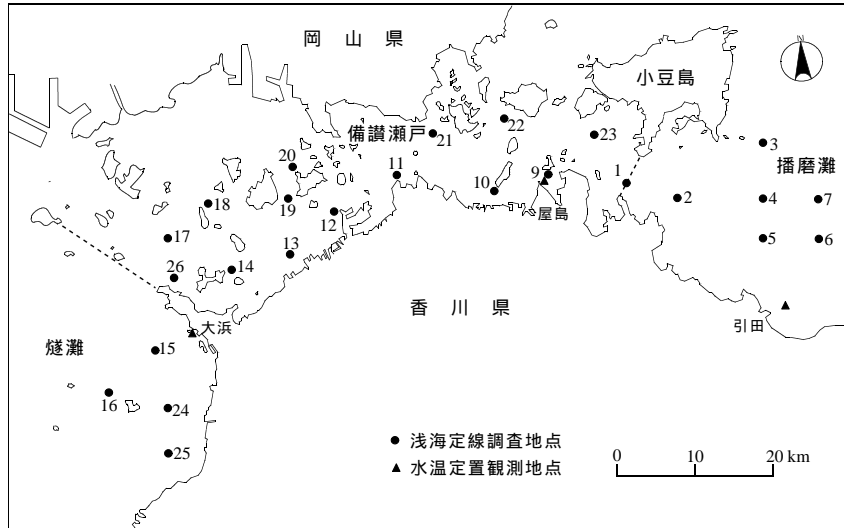


香川県漁海況速報 平成19年 7月 (H19-4号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年7月4日 (播磨灘) 3日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めからかなり高め」、塩分は「平年並みからかなり高め」、透明度は「平年並みからかなり高め」、溶存酸素は「かなり低めから平年並み」であった。
 平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	23.4	21.8	20.0	32.5	32.6	32.7	8.6	4.59	3.93
	平年値	22.1	20.6	18.8	31.6	31.8	32.1	7.7	5.26	3.73
	平年偏差	1.2	1.2	1.2	0.9	0.8	0.6	0.9	-0.67	0.20
	状況	やや高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	かなり低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	22.5	22.1	21.9	32.9	32.9	32.9	5.3	4.23	4.08
	平年値	21.3	20.8	20.6	31.5	31.8	31.9	4.2	4.71	4.46
	平年偏差	1.2	1.3	1.4	1.3	1.1	1.0	1.1	-0.48	-0.38
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	かなり低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	25.5	21.6	19.1	31.3	33.1	33.3	11.6	4.46	3.83
	平年値	23.9	20.2	18.2	31.4	32.4	32.7	9.1	5.28	3.73
	平年偏差	1.7	1.4	0.9	-0.1	0.7	0.7	2.5	-0.82	0.10
	状況	やや高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	かなり高め	やや高め	やや高め	かなり低め	平年並み

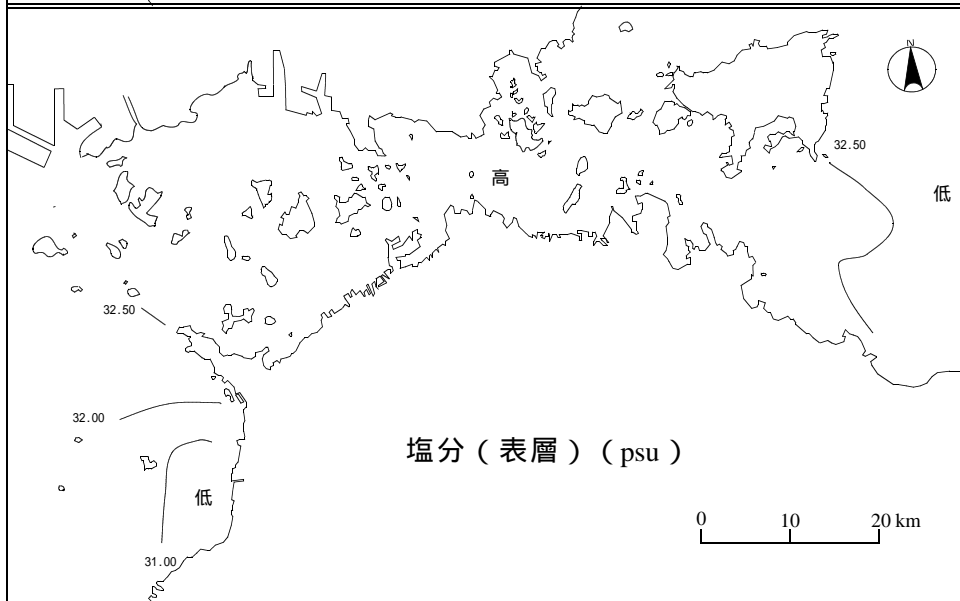
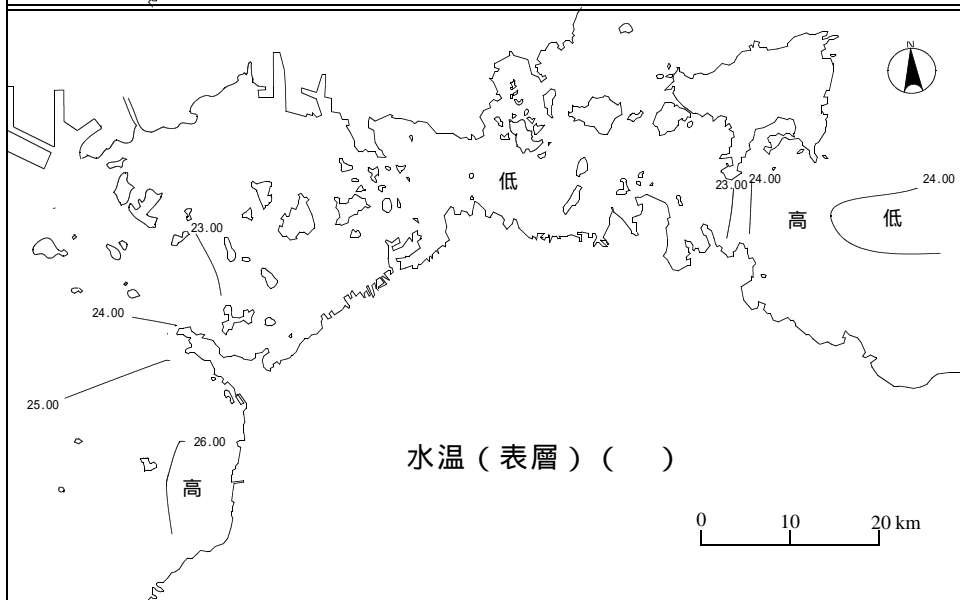
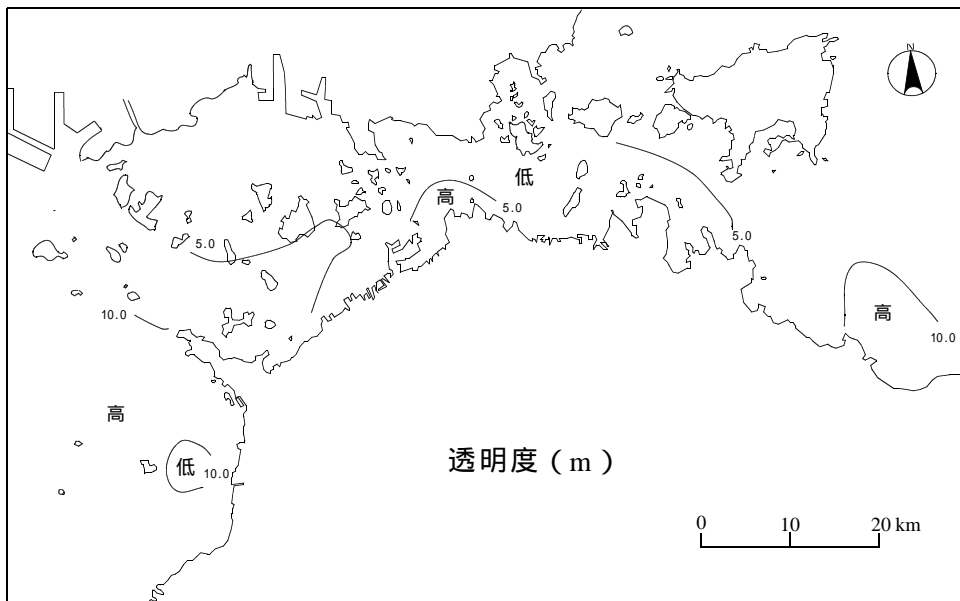
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定量観測(水温)

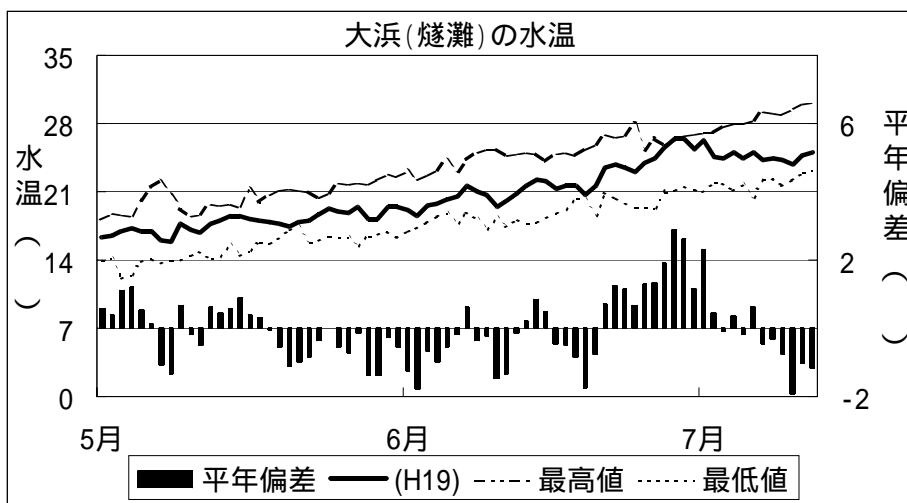
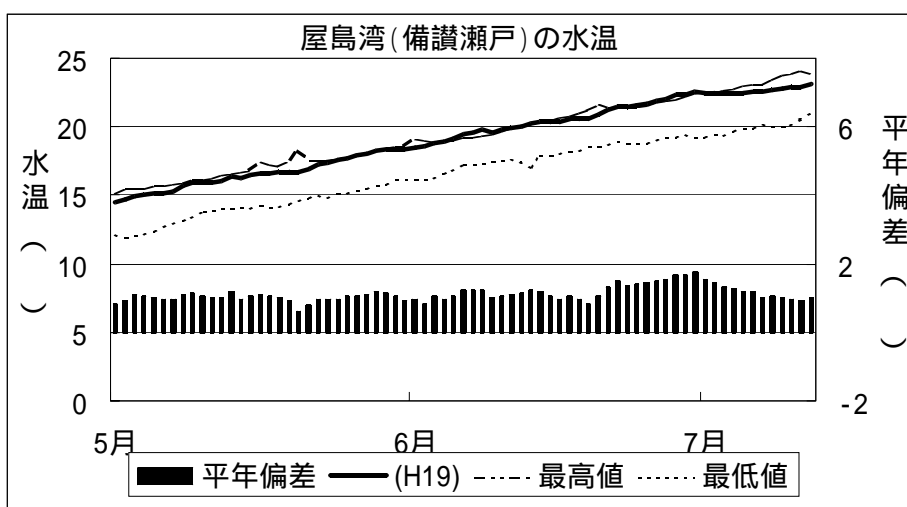
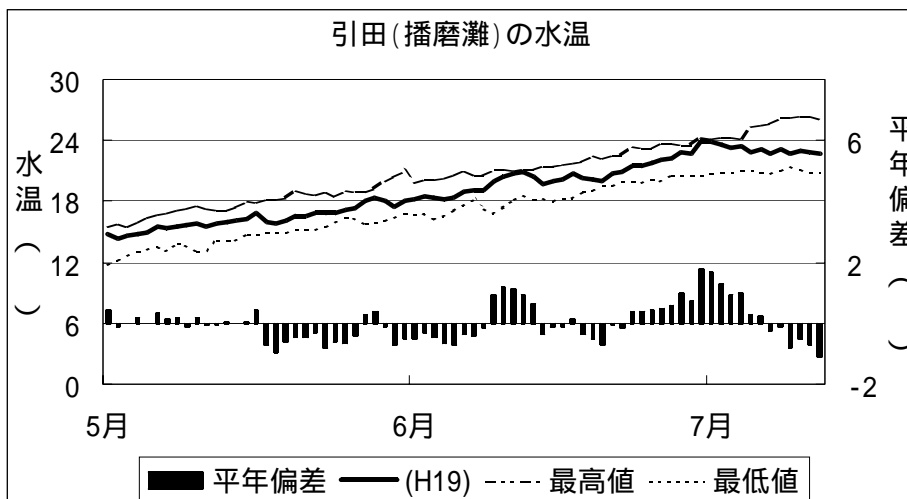
播磨灘(引田): 6月中旬ややからかなり高め、以後平年並み、6月末から7月初めややからかなり高め、5日以降はやや低めから平年並みで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 6月中旬以降かなりから著しく高めで推移、7月第2週以降やや高めで推移している。

燧灘(大浜): 6月中旬以降やや低めから平年並み、6月下旬はややからかなり高め、7月に入るとやや低めから平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮 (6月14日～7月13日)

播磨灘：発生なし。
備讃瀬戸：発生なし。
燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年7月4日 (播磨灘) 3日 (備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個 (尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.38	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	11.00	7.00
備讃瀬戸平均	0.33	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	10.27	5.13
燧灘平均	11.29	1.14	0.00	0.00	0.00	0.00	15.43	16.14
総平均	2.90	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	11.67	8.20

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.9%	4.3%	-	-
備讃瀬戸平均	11.1%	32.8%	-	-
燧灘平均	81.6%	44.0%	-	-
総平均	11.9%	8.7%	-	-

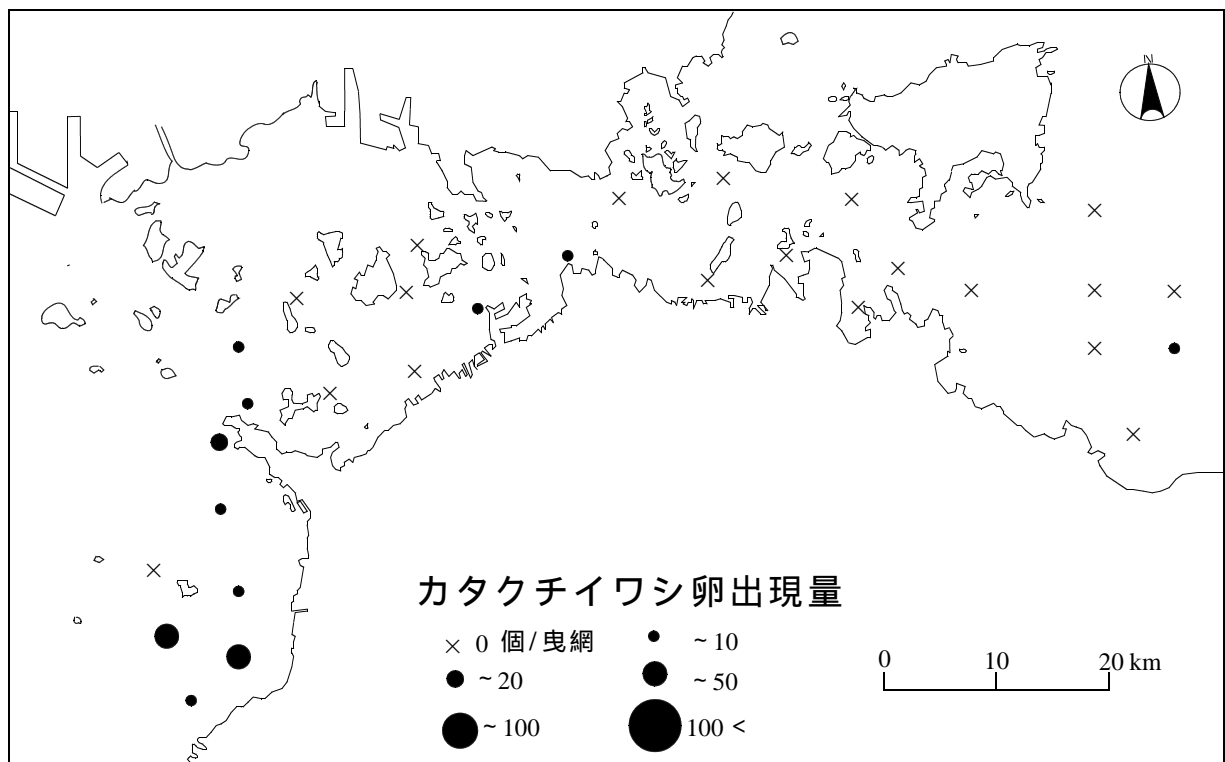
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55 (1980) ～平成18 (2006) 年度

マイワシ：平成5 (1993) ～平成18 (2006) 年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

6月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では、例年に比べハモが少ないが、6月中旬より小エビ類、イボダイが獲れ始めた。</p> <p>柵網ではコノシロ、マアジ、マルアジ、ウマヅラハギが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>大型定置網では主にサンマ、マルアジ、スルメイカ、タチウオを中心に漁獲されているが、例年に比べてタチウオ、スルメイカが少ない。</p> <p>東讃のシラス船曳網の6月の漁獲量は約340トンで前年の6トンを大きく上回り、好調な漁獲が続いている。</p> <p>サワラ流し刺網の6月までの漁獲量はサワラ78トン、サゴシ9トンで前年の114%、50%であった。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、小エビ類、コウイカ類、マダコが漁獲されている。</p> <p>高松・庵治沖のイカナゴ込網の6月までの漁獲量は、約1,237トンで前年の約24%と不漁で、漁期を終了した。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小エビ類、アカカマス、コノシロ、メイタガレイ、タチウオが漁獲されている。</p> <p>イワシ機船船びき網の漁獲量は、6月12日から開始された大羽漁は不漁で前年を大きく下回り、引き続き6月22日から開始されたチリメン漁も不漁である。</p>